



写真-1 矢田川に架かる矢田橋（令和5年6月撮影）

■ 矢田橋、一時国道橋になる

写真-1 は、香美町香住区の矢田川河口に架かる主要地方道 4 号香住村岡線（以下「香住村岡線」という）・矢田橋を左岸側から撮影したものです。この橋は、橋長 156m、有効幅員 5.5m、9 径間単純 RCT 桁橋+3 径間連続 RCT 桁橋で、親柱には「昭和 28 年 9 月竣功」と刻まれた御影石の銘板が埋め込まれています。架橋当時の路線名は「府県道 64 号竹野浜坂線」（大正 9 年 4 月 1 日路線認定告示）です。

かつて豊岡から香住を経て因幡国に至る往来は「但馬浜街道」と呼ばれていて、そのルートを引き継いだのが国道 178 号で、現行の道路法（昭和 27 年法律第 180 号）に基づく二級国道として昭和 28（1953）年 5 月 18 日に初回指定されました。

国道指定当初から「舞鶴鳥取線」の路線名が付与され、起点は京都府舞鶴市でしたが、終点は鳥取県まで行き着けず城崎郡香住町（現・香美町）から現在の香住村岡線を経由して美方郡射添村（いそぞん：現・香美町村岡区）で国道 9 号に接続する路線として指定されていました。

昭和 40（1965）年、道路法改正により一級・二級区分が廃止され、一般国道 178 号（舞鶴市～兵庫県美方郡村岡町）として指定施行されます。



写真-2 矢田川右岸から矢田橋を撮影

終点が鳥取県岩美郡岩美町に変更されたのは昭和 45（1970）年 4 月 1 日のことで、この時に矢田橋も国道 178 号に組み込まれ、城崎郡香住町（現・香美町）から美方郡村岡町（現・香美町）で国道 9 号に接続する旧道は、昭和 46（1971）年 10 月に香住村岡線として路線認定されました。

そして、平成 22 (2010) 年 12 月 12 日の山陰近畿自動車道「余部道路」開通に伴い、香住 IC～余部 IC 間の経路を国道 178 号とし、旧道は国道指定を解除して香住村岡線に指定、現在に至っています。

■ 明治時代末期にはすでに木造の矢田橋があった

図-1 の明治 34 (1901) 年作成の大日本帝国陸地測量部の地図を見ると、矢田川河口にはすでに橋が架かっているように見えます。また、写真-3 の明治時代末期に島山から矢田川河口部を撮った写真には、山陰本線・矢田川橋梁の下流に木橋が架かっているのが見えます。この道が、豊岡から香住を経て因幡国に至る往来(但馬浜街道)です。



図-1 明治 34 年の香住村
(大日本帝国陸地測量部地図を加工)

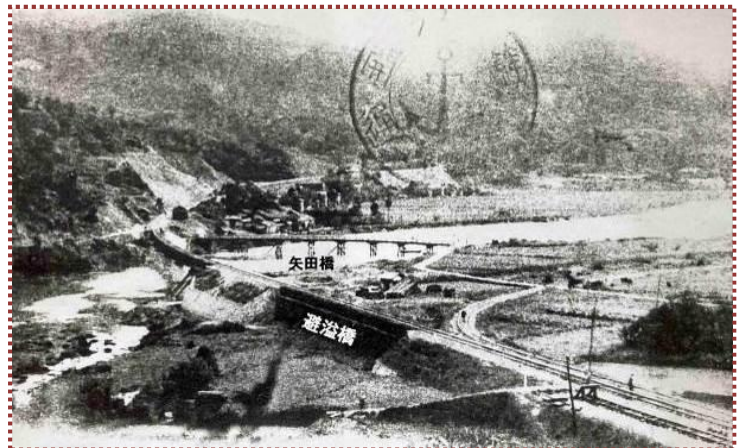


写真-3 明治時代末期、島山から矢田川河口部を撮影
(香美町立香住区中央公民館提供・加工)

■ 但馬地方にも甚大な被害をもたらした室戸台風

昭和 9 (1934) 年 9 月 21 日午前 5 時頃、高知県室戸岬付近に上陸し、淡路島を経て午前 8 時頃に阪神間に再上陸、京都市付近に達し更に北東方向に進み若狭湾に出ました。京阪神地方を中心として甚大な被害をもたらしたこの台風は、上陸地に因んで「室戸台風」と命名されました。上陸時の中心気圧 911.6hPa は、日本本土に上陸した台風の中で現在でも観測史上最低とされています。

室戸台風は、記録的な最低気圧・最大瞬間風速を観測し、高潮被害や強風による建物の倒壊被害によって約 3 千人の死者・行方不明者を出し、昭和 20 (1945) 年の枕崎台風、昭和 34 (1959) 年の伊勢湾台風と並んで昭和の三大台風の一つに数えられています。

但馬地方においても大きな被害が発生しています。写真-4 は、室戸台風時の矢田川河口で、矢田橋はこの洪水により流失したようです。



写真-4 流失した矢田橋付近 (旧香住町七日市)
(兵庫県 CG ハザードマップから引用・加工)

『香住の地誌 (2)』には、「昭和 12 (1937) 年度矢田橋 (木造橋) 架橋工事、昭和 16 (1941) 年度竣工 15,814 円」との記載があります。おそらく室戸台風による洪水で流失した矢田橋の復旧工事のことと思われます。昭和 12 (1937) 年は日中戦争開戦の年なので永久橋による復旧は財政的に厳しかったのでしょう。そういえば同時期に架けられた岸田川の七釜橋 (新温泉町七釜) も木造のトラス橋でした。

■ 県下初の災害復旧助成事業～矢田川

『兵庫の河川事業 50 年のあゆみ』によると、室戸台風を契機に災害復旧助成事業 (当時は「災害土木事業助成工事」と称した) が制度化され、兵庫県では但馬地方の竹野川、矢田川、岸田川が当該事業に採択されています。

矢田川の事業費は 450 千円 (災害費 230 千円、助成費 220 千円)、施工延長 2,790m となっているので、施工区間は河口から大乘寺橋上流の井堰付近までと思われます。

室戸台風後の河川改修計画作成にまつわる話を、『兵庫の河川事業 50 年のあゆみ』中の「思い出でつづる河川事業 50 年のあゆみ」に掲載された水元和氏の「昭和 9 年災害の思い出」から、少し端折りますが紹介します。

「昭和 9（1934）年 9 月某日、武庫川上流工営所箱木所長から「県から通知があったので、ご苦労だが君は今から柏原土木出張所へ災害の応援に行ってもらいたい。」と言われた。柏原土木出張所に着くと堀田所長から「県から通知があったから八鹿土木出張所へ災害の応援に廻ってもらいたい。今日は遅いから明日行ったらいい。」と言われた。翌日八鹿土木出張所に着き、県庁から来た堀内技師・高宮技師と合流、そこで今回の使命を知らされた。「但馬の激甚災害地を廻って河川改修の必要な区域を選定して河川改修計画を樹立し 1 週間以内に提出する」とのこと。豊岡土木出張所に行き、多田隈所長・応援の松田技師から管内の災害激甚地の状況を聞き合わせの上、竹野川・佐津川・矢田川・岸田川・大柄川の 5 河川を調査することにした。（中略）

翌日調査開始、私たちが持参したのは降雨量からの計画洪水量計算表・クッターND 曲線図表・ハンドレベル・陸地測量部の 1/5 万図だけ、昼は河川に沿って要所要所で測定し夜は改修計画をたてる。（中略）このようにして竹野川河口から上流に向かって測定し、三椒（現・豊岡市竹野町の南端）から山越えて佐津川上流に出て河口まで測定した。翌日は矢田川河口から大谷川合流点まで測定し、次は大柄川（諸寄漁港に流入する小河川）を踏査したが、この川は災害復旧工事に回すこととして、岸田川を河口から春來川合流点まで測定して湯村温泉のとみや旅館（今も営業している）にたどりついた。とみや旅館も被災していて、1 階は土砂で埋まっていたのをやっと取り除いたところだったが快く迎えてくれた。

これまで調査した被災地の河川沿い是一片の耕地も残さず山から山まで完全に河原と化して、所々に道路と堤防の姿が残っている状態であった。とみや旅館では、昼夜兼行で改修計画の総括をして 4 河川の改修計画書を作成した。」



図-2 北但馬地域の地図

当時は、調査・測量から設計・施工までほぼ直営で、便利な機械器具もなかったので大変だったと思います。現地調査は車で走り回ったのでしょうか、それともバイク、まさか徒歩？

■ 戦後になってようやく永久橋が架けられる～矢田橋

矢田川河口に永久橋が架けられたのは、冒頭に記載のとおり、昭和 28（1953）年 9 月のことです。朝鮮戦争による特需景気の恩恵を被ったのかも。

なお、昭和 50（1975）年に有効幅員 2.0m の矢田橋側道橋が下流側に併設されています。写真-6 で、側道橋の下流に見える橋は工事中的の（新）矢田橋です。



写真-5 矢田橋側道橋（左岸から撮影）

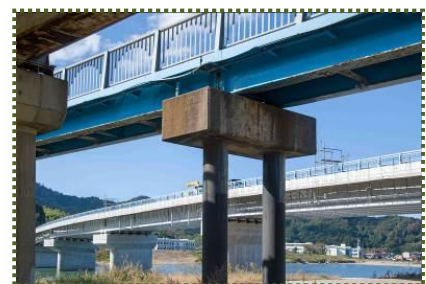


写真-6 矢田橋側道橋（河原から撮影）



図-3 矢田川河口付近の地図

■ 矢田橋の架け替え

現・矢田橋はかなり老朽化していて、5年ごとの定期点検でも主桁に著しい腐食が見られる（そういえば桁の下フランジなどに鉄板を貼って補強していました）など損傷が激しいことから架け替えることに。

平成 28（2016）年度に事業化され、平成 30（2018）年度から架替工事が進められています。（新）矢田橋は、下部工が逆 T 式橋台・張出し式橋脚で、基礎が直接基礎および場所打ち杭基礎、上部工が PC6 径間連結バルブ T 桁橋で、橋長 222.0m、6 径間（東から 37m+35m+36m+36m+38m+40m）、有効幅員 11.0m（車道 8.5m+片側歩道）です。

令和 6（2024）年 3 月に供用開始されており、古希を過ぎた現・矢田橋は現在取り壊し中です。



写真-7 （新）矢田橋（令和5年10月撮影）

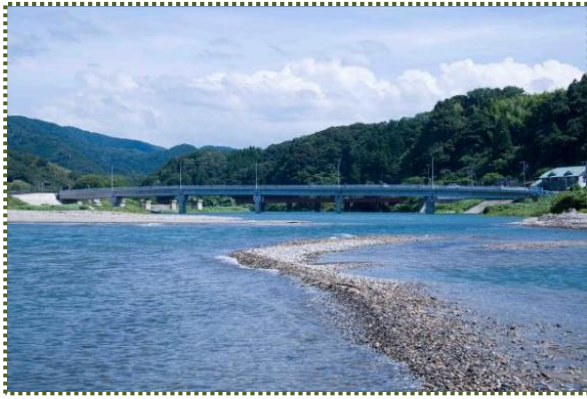


写真-8 (新) 矢田橋 (令和 8 年 7 月撮影)



写真-9 (新) 矢田橋 (令和 8 年 7 月撮影)

写真-8・9 は、(新) 矢田橋供用後の令和 8 (2026) 年 7 月に撮影したもので、旧橋の橋脚は右岸高水敷の橋脚のみが未撤去 (写真-9) です。

■ モノローグ

但馬漁火ラインは、豊岡市気比から香美町を経て、新温泉町居組を結ぶ日本海沿いを走る主要道路で、兵庫県で初めて国土交通省の「日本風景街道」に選定された道路の一つです。全域が山陰海岸国立公園に属する東西約 50km の但馬海岸は起伏に富むリアス式海岸で、山陰海岸ジオパークにも登録されており、美しい自然景観を楽しみながらツーリングやドライブを楽しむことができ、矢田橋もこの区間に含まれています。(写真-10・11 は、但馬漁火ラインの見どころのほんの一部です。)



写真-10 余部橋梁

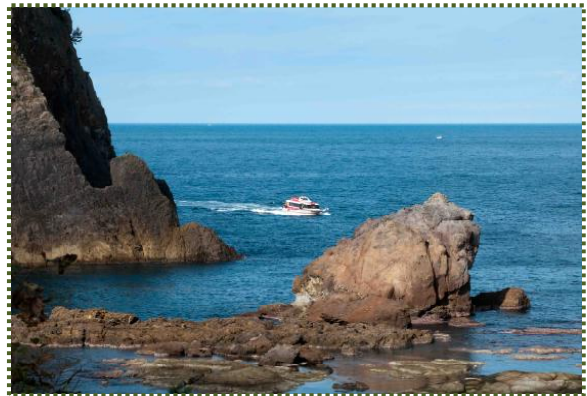


写真-11 今子浦の「かえる岩」

現在整備が進められている山陰近畿自動車道約 120km のうち兵庫県内が約 51km あり、そのうち佐津 IC～新温泉浜坂 IC 間 23.2km がすでに開通、豊岡～浜坂間がずいぶん近くになりましたが、たまには観光名所や絶景スポットで写真を撮りながら、但馬漁火ラインをのんびり走ってみたいものです。天気の良い日に！

ウラナミシジミ

シジミチョウ科の小型のチョウ。翅の裏面に茶色と白色の細かい波模様があり、表面は弱い光沢のある薄青色。草地や畑の上を活発に飛び、いろいろな花で吸蜜する。南方系のチョウで、夏から秋にかけて分布をどんどん北に広げるため、関西周辺では秋に見る機会が多い。しかし、暖地を除いては越冬することができず、冬の訪れとともに死に絶えてしまう。幼虫は、ソラマメ、エンドウ、ハギ類など、マメ科植物の花や若い果実を食べる。



写真-12 ウラナミシジミ (香住高校前の県道沿いで撮影)

【参考資料】

- 1 『香住の地誌(2)』 香住町教育委員会 1997 年 12 月
- 2 『香住村』 日本歴史地名大系
- 3 『兵庫の河川事業 50 年のあゆみ』 兵庫県土木部河川課 1991 年 3 月
- 4 『兵庫県 CG ハザードマップ防災学習〈洪水編〉過去の洪水記録』 兵庫県土木部技術企画課
http://gakusyu.hazardmap.pref.hyogo.jp/bousai/kouzui/history/1934_09.html
- 5 『国道 178 号、兵庫県道 4 号香住村岡線、室戸台風、三椒村、但馬漁火ライン』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
- 6 『山陰近畿自動車道(鳥取豊岡宮津自動車道)』 兵庫県 HP <https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks08/r4saninkinki.html>
- 7 『ウラナミシジミ』 いきものラビリンス HP <https://insects.jp/kon-tyouranamisi.htm>

※発行：令和 6 (2024) 年 3 月 『ひょうご水百景』 No.193

改訂：令和 8 (2026) 年 7 月 『ひょうご水百景』 No.193